

交通事故ゼロの願いを込めて

交通安全教室が市場小で5月19日に開かれました。この日は、田川警察署員2人と田川地域交通安全活動推進委員3人が招かれ、1年生63人に信号の意味や横断歩道の渡り方、4年生66人に自転車運転の注意点を説明。署員から「登下校時の事故」が多いと聞いた児童は、「交通ルールを守ります」と署員と約束し、交通安全の意識を高めているようでした。



↑おまわりさんの指導で、横断歩道の前で手を挙げ、安全確認する市場小1年生。

↓「紫のカーテン」の下をくぐり、大庭住職による読経などで藤供養を行いました。



樹齢500年越えの藤の長寿を祈願

県指定天然記念物「迎接の藤」で有名な定禪寺で4月29日、「藤まつり」が開かれました。約800平方メートルにおよぶ藤棚の下で、読経や献笛、お神酒による供養が行われ、藤の長寿と満開を祈願しました。今年は例年より寒い日が続いた影響で5分咲きの中での挙行となりましたが、陽気に誘われて訪れた約100人が、甘い香りに包まれながら供養を見守りました。

↓国枝選手に握手を求める子どもたち。会場は約700人がつめかけ、出場選手と交流を楽しみました。



交歓会で選手と被災地の支援

飯塚国際車いすテニス大会の選手と交流を深める「国際交歓会」が5月20日、金田体育館で開催されました。今年は大震災の被災地を配慮して開催が危ぶまれましたが、例年、参加者に無料で振る舞っていた食事を100円の食券方式に変更し、収益を義援金として被災地に送ることで開催を決定。義援金275,730円が集まり、選手の歓迎とともに被災地支援を行いました。また、会場には、車いすテニス世界No1の国枝慎吾選手が初参加。「ここで英気を養い、明日からの試合に励みます」と話し、歓迎を喜んでいました。

**スカイライオンズが全国大会出場決定
念願の全国大会出場をつかむ**

全日本軟式野球福岡連盟の西日本大会決勝戦が4月24日に苅田町で行われ、出場した軟式野球チーム「スカイライオンズ」が見事優勝に輝きました。順当に決勝戦までこまを進めたスカイライオンズは、1点を争う一進一退の好ゲームを開幕。延長10回裏に劇的なサヨナラで勝利を收め、7月1日から兵庫県で行われる全国大会出場の切符を勝ち取りました。



↑優勝を手にしたスカイライオンズのナイン。チーム一丸で勝利を引き寄せました。

↓選んだトランプが水の中に移動。不思議の連発にみんな感動した様子でした。



南北朝の面影残る寺でマジックショー

足利尊氏ゆかりの興国寺(上野)で、5月8日に毎年恒例の「花まつり」が行われました。「気軽に寺に立ち寄って楽しんでほしい」という横山哲志住職の発案で、今年は福智町弁天出身の手品師・香月信也さんを招き、本堂でマジックを披露。参列者は目の前で繰り広げられる不思議な出来事を食い入るように見つめ、時折大きな歓声を響かせていました。

↓陶芸ファンは上野焼の趣深い風合いや手に取った感触で、品定めしていました。

金田中のトリオが九州の頂点に導く

ミズノ旗争奪「第7回九州選抜大会」の決勝戦が4月30日に鹿児島市で行われ、飯塚ライジングが九州の頂点に立ちました。チームには、エースで4番の福田蒼也くん、チームの要で捕手の福島孝輔くん、1年生から主砲として活躍する遊撃手の高濱祐仁くんが在籍。3人は8月に行われる全国大会で「絶対優勝してきます」意気込みを語り、活躍を誓っていました。



↑今後の活躍が期待される④福島孝輔くん④福田蒼也くん④高濱祐仁くん。



春の新作を求めて陶器ファンが続々

上野焼の「春の陶器祭り」が4月22日から3日間、上野焼協同組合13窯元と上野の里ふれあい交流会館で開かれました。期間中は、店頭にお買い得な割引商品が並び、窯元を巡って4つのスタンプを集めると大好評。また、霧島連山・新燃岳の被災地支援を目的にした陶器も販売され、陶器ファンがお目当ての商品を求めてにぎわいを見せました。